

さいたま市 退職校長会 会報

発行責任者
桑原 裕通

会長就任にあたって

さいたま市退職校長会

会長 桑原 裕通

この度の総会で会長職を仰せつかることになりましたと与野班の桑原裕通と申します。大変な重責を背負うことになりましたが、会員の皆様のご理解とご協力を得て頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、六月二日にさいたま市文化センターで開催された令和五年度埼玉県退職校長会定期総会は昨年度の川口大会に続いて二度目の午後開催でしたが、無事成功裏に終了することができました。今回は五年に一度のさいたま市担当ということで、大

宮班が中心となって足掛け二年にわたる周到な準備ができたからこそその成果だと思えます。今までのご苦勞に対し、改めて感謝を申し上げます。

早いもので、今年の五月二十九日でさいたま市退職校長会が発足して満二十年を迎えました。この区切りある年に取り組むことについて三点述べたいと思います。

一点目は過去三年間、コロナ禍で中止や規模縮小等の措置を取らざるを得なかった「さいたま市現職・退職校長教育推進協議会」が、漸く通常の形で実施できそうだという見通しが立ち、多くの会員の皆様と直接触れ合えることを願いつつ、慎重に準備を進めていくこと。

二点目は、加々美前会長の下で始まった各班の事業における

相互交流は、「出会いとつながり」が創出されるだけでなく、人それぞれの見聞も広がるという意味で大変有意義な取り組みですので、今後も一層の充実を図っていくこと。

また、六十歳の定年が段階的に一歳ずつ引き上げられることで、新会員の加入が一年置きになることから組織上の問題が生じて来ている。そして、再雇用等で勤務されている方々が班の活動になかなか参加しづらい状況も見受けられます。これらのことを踏まえ、三点目として本会の姿はこのままで良いのか、或いは改革が必要ならどうすればよいか等を会員の皆様と一緒に考えていきたいということです。

以上、簡単ではございますが就任のご挨拶といたします。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。



— 桑原 裕通 会長 —

目次

◇巻頭言

さいたま市退職校長会
会長 桑原 裕通 1

◇さいたま市立小学校校長会

会長からのメッセージ
さいたま市立小学校校長会
会長 三島 公夫 様 (常盤小) 2

◇さいたま市中学校校長会

会長からのメッセージ
さいたま市中学校校長会
会長 小熊 誠 様 (日進中) 3

◇令和五年度さいたま市退職校長会定期総会 概要

「令和五年度教育行政方針」の概要
さいたま市教育委員会 4

◇教育情報

「令和五年度教育行政方針」の概要
さいたま市教育委員会 5

◇談話室 く私の一言く

坂本 諭・星野 好男
脇田 茂雄・佐藤 和男
佐藤むつみ・金子みゆき
渡邊 正道・林 春枝 6

◇心覚え

渡邊 正道・林 春枝 9

◇編集後記

題字・桑原 裕通 10

さいたま市立小学校 校長会会長からの

メッセージ

今年はターゲット・ イヤードです



さいたま市立小学校校長会

会長 三島 公夫
(常盤小学校)

「二十年後、あなたはやったことよりもやらなかったことを悔やむことになるだろう。そうなる前に、安穩とした港から船を出せ。自分自身の帆で貿易風を受け止めよ。真に求めるものを探求し、叶うことを願い、見出すのだ。」

これは、名作「トム・ソーヤの冒険」などの著者として知ら

れるアメリカの作家マーク・トウェインの言葉です。コロナ禍の三年間は、まさにこの言葉が示す学校経営でした。

令和五年、ようやくアフターコロナの生活となりました。しかし、平和への不安、環境問題：と、社会や地球の不安定性は少しずつ高まっています。折しも時代は「VUCAの時代」と言われるように、あらゆるものを取り巻く環境が複雑になり、将来予測が困難にもなっています。このような中、学校は今年、二つの点でターゲット・イヤードになると考えています。

その一つは、ICTの重要性です。昨年度の本誌でも紹介しましたように、一人一台端末によって学校の様子は大きく変わりました。そして、さいたま市ではGIGAスクール構想の次なる一手として、「さいたま市スマートスクールプロジェクト(SSSP)」を本格的に推進し、学校における「学び方」「教え方」「働き方」の改革を進めています。例えば、「児童生徒ボー

ド」には、児童生徒の基本情報や学習履歴、生活の記録、教師の指導記録などの様々なデータが分かりやすく一覧化された情報として示されます。このことで課題の早期発見ときめ細やかな指導・支援ができるようになると期待しているところです。

二つ目は、学校の役割がこれまで以上に高まるということだと思います。一例を紹介します。かつて学校で見られていた、と言うか、少なくとも私が経験したことや、ものの考え方、やり方が通じなくなっています。例えば、「鍛える」という言葉はもはや学校には見当たりません。「厳しく」指導すると子どもたちは落ち込んだり、その場から逃げ出したりしてしまいます。保護者も、鍛える指導や厳しい指導を好みません。理由を付けて、子どもが傷つかないようにしてほしいと願っています。残念なことに、これらのことは教員にも、特に経験の比較的浅い、若い教員にも当てはまります。

しかし、学校は、予測のつか

ないとも言われている、厳しい将来社会を生き抜いていく子どもを育てていかななくてはなりません。この学校の役割は、子どもや保護者の意識がどう変わろうとも、社会がいかに変化しようとも、変わるものではありません。教員になって間もない頃、私はある校長先生からこんなことを教わりました。「学校は厳しいところですよ」と。

さいたま市立小学校校長会は、このような状況を深く認識し、校長会の総力をあげて未来社会を創造する力を身に付けた児童の育成に努めています。そのために校長自ら研鑽に励み、学校経営上の課題を明確にし、その解決を図るための確固たる経営方針のもと、創意ある教育活動の実現を目指してまいります。桑原裕通会長をはじめ、さいたま市退職校長会の皆様には、校長としての在り方や学校経営につきまして、今後とも御指導を賜りますようお願い申し上げます。

さいたま市中学 校長会会長からの

メッセージ



団結・創造・進化

さいたま市中学校長会

会長 小 熊 誠

(日進中学校)

世界は今、新型コロナウイルス感染症による影響から解放され、コロナ禍以前の当たり前を取り戻し、発展させていくために多方面に亘り様々な方策を進めようとしています。まさに、教育現場においても同じであり、政令指定都市さいたま市の誕生と共に設立され、創立二十二周年を迎える、さいたま市中学校長会(本会)も本年度大きな勝

負の年を迎えようとしています。これまで諸先輩方の築いてこられた伝統を継承し、さらに前に、大きな進化を遂げるべく本会一同、尽力していく所存です。

さて、加速度的に広まってきた「GIGAスクール構想」は、授業の風景を大きく変化させました。教室に居ながらにして、世界と繋がり、自分の考えを発信できます。そして、「教える」「教え込む」ことが中心であった一斉授業から、「学習者が主体的に学ぶ」個に応じた個別最適化された授業」に改革されてきています。私たちが黒板とチョークで勝負していた時代とは全く別次元となりました。私たちには今までの概念を一新するとともに、新しい発想が必要となってきています。しかし、便利で良いものにもまだまだ課題もあります。技術の発達に私たちの心が追いつかず、残念ながら技術に使われている状態があることも否めません。私たちには技術を使いこなす能力と知識、そして心が必要

となってきています。大きく、しかも急速に変化してきている社会において、今まで私たちが推し進めてきた教育だけでは通用しない状態が現実となってきています。まさに、本市の令和五年度の経営方針「シン・GIGAスクール構想」で実現させる教育DX(デジタル・トランフォーメーション)一人ひとりのWell-being(幸せ)を大切にし、民主主義の担い手をはぐくむために示されている、「さいたま市スマートスクールプロジェクト(SSSP)・「未来の教育」・部活動の地域移行」等の実現を目指し、新しい教育への進化が求められています。

そのために、今、私たちがやるべきことは、団結を一層強め、一枚岩となり、子どもたちにとって何が必要で、私たちには何が出来て、何からするべきなのかを考え、実践していくことです。そして、学校だけではなく、学校運営協議会の皆様とともに、子どもたちの活躍の場を広げて

いくことです。私たちには、それらの場を活用し、子どもたちが、今起きていることや、これから起きようとしていることを「自分事」としてとらえ、自分たちが創る未来に向けて、主権者として自ら歩み出せるよう磨きあげていくことが求められています。いつの世においても私たちの使命は変わりません。それは、未来を創る子どもたちの命を守り、磨き、輝かせることです。

そして、私たち校長が中心となり、私たちの宝である子どもたちの居る学校をど真ん中に、地域で暮らす全ての人々が幸せになる社会、そんな進化した社会を創りあげていくことです。それが、本市の目指す人間像である「世界と向き合い、未来の創り手として輝き続ける人」の実現に繋がる道となるはずですよ。

今後とも桑原裕通会長様をはじめ、退職校長会の皆様方には、本会並びに各学校の最大最強の守護神として、より一層の御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

令和五年度 さいたま市退職校長会 定期総会 概要

令和五年度さいたま市退職校長会定期総会が、五月十九日（金）、別所沼会館において開催された。ご来賓には、さいたま市教育員会学校教育部長・野津吉宏様、埼玉県退職校長会会長・石田孝作様、さいたま市立小学校校長会会長・三島公夫様、さいたま市中学校校長会会長・小熊誠様、さいたま市退職校長会顧問・西村皓様をお迎えした。

一 開会行事

桑原裕通副会長の司会進行で、佐藤憲克副会長が開会のことばを述べた。

昨年度ご逝去された十三名の会員のご冥福を祈り黙祷する。加々美健一会長のあいさつでは、次の四点の話があった。



①今年度、埼玉県退職校長会総会が六月二日にさいたま市で開催される。ご協力願いたい。②段階的な定年延長により、今年度末の退職者は0となる。会の運営（役員人事や予算面）への影響が予想される。③埼玉県退職校長会のホームページの内容が充実している。さいたま支部、各班の状況も積極的に発信していきたい。④さいたま市退職校長会は、四つの班の連合体である。同好会への参加、美術展の出品、講師の登録などとおして、班の連携を深めていきたい。

続いて、加々美会長より十四名の新会員の紹介があった。

次に、ご臨席いただいたご来賓からご祝辞をいただく。さいたま市教育員会学校教育部長・野津吉宏様からは、本市の教育施策（学校における学び方改革、不登校支援の充実、部活動の地域移行等）と児童生徒の活躍について報告があった。埼玉県退職校長会会長・石田孝作様からは「県会員総勢三七五二名（新会員一四三名）でのスタートとなった」、さいたま市退職校長会顧問・西村皓様からは「設立当初からの本会の発展をみると感慨深い」、さいたま市立小学校校長会会長・三島公夫様からは「学び実践する校長会として今後ともご指導いただきたい」との言葉があった。

二 議事

岩槻班の川村潔会員が議長に

選出され、「令和四年度事業報告並びに決算報告」が承認された後、「令和五年度役員改選」があり、桑原裕通新会長をはじめとした新役員が承認された。

旧役員を代表して、加々美前会長から、「まだ県総会の任を残しているが、これまでお世話になりました」と退任のあいさつがあった。桑原新会長からは、「人と人とのつながりを大切に、各班の相互交流を進展させるとともに、二十年目となる本会の今後のあり方についても検討していきたい」との抱負が述べられた。

最後に、「令和五年度事業計画並びに予算案」についても、拍手をもって承認された。

三 閉会行事

金子敏夫副会長が閉会のことばを述べ、定期総会が無事終了した。（文責 豊島 登）

教育情報 さいたま市の教育 ～「令和5年度教育行政方針」の概要～**「シン・GIGAスクール構想」で実現させる教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）～一人ひとりのWell-being（幸せ）を大切に、民主主義の担い手をはぐくむために～**

令和5年度のさいたま市教育の目指す方向性について、3点述べさせていただきます。

1点目は、「シン・GIGAスクール構想」つまり「さいたま市スマートスクールプロジェクト（以下SSSP）」で実現させる教育DXについてです。

令和5年度は、連携企業とともにGIGAスクール構想を超えるSSSPを推進し、学校における「学び方」「教え方」「働き方」を改革してまいります。

SSSPの重要な柱の一つは、ICTの活用により日々蓄積される教育データを可視化して分析する「スクール・ダッシュボード」の開発です。令和5年度は、エビデンスベースの指導や子どもたち一人ひとりの個に応じた学びの実現に向け、取り上げるべきデータの選択やその有効性等について、連携企業や東京大学・慶応義塾大学の鈴木寛教授と共同研究してまいります。そして、令和5年度内には、さいたま市教育にとって最善の「スクール・ダッシュボード」の完成を目指します。

SSSPのもう一つの柱は、「探求的な学び」です。令和5年度は、これまでの取組に加えて「プログラミング教育『さいたまモデル』」で新たな「探求的な学び」を実践してまいります。

2点目は、一人ひとりのWell-being（幸せ）を大切にする「未来の教育」と民主主義を担う力であるエイジェンシーについてです。

令和4年4月には、ICTを活用した学習支援やオンライン相談を行う「不登校等児童生徒支援センター（Growth）」を開設しました。令和5年度は、社会的自立を目指し、Growthでの学びをさらに豊かなものにするとともに、「教育×メタバース」で、人々が交流する物理的空間の制約から解放された仮想世界に、「未来の学びの場」を構築することにもチャレンジしたいと考えています。

次に、学校を、子どもたちにとって最も居心地が良いWell-beingな場所にするために、児童生徒を学校づくりの主体にし、民主主義を担う力であるエイジェンシーを育成することについてです。エイジェンシーは、「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」であり、今後ますます重要な力になっていきます。令和5年度は、児童生徒が参画するコミュニティ・スクールも模索し、学校運営に、教職員、児童生徒、保護者、地域住民が主体的に関わる仕組みづくりを考えてまいります。

3点目は、「地域における新しいスポーツ・文化環境の創造～部活動の地域移行～」についてです。

この改革の最大の課題は、中学校教育においてこれまで部活動の果たしてきた「教育的効果」を、教育課程の中でいかに獲得できるかにかかっていると考えています。令和5年度は、数校のモデル校で地域移行をスタートさせ、まずは「統括団体」創りから始めます。

- I 教育DXによる学びの自律と個別最適化の実現
- II 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成
- III グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成
- IV 人生100年時代を輝き続ける力の育成
- V スクール・コミュニティによる連携・協働の充実
- VI 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備

談話室

— 私の一言 —

個別最適な学び

坂本 諭

退職後に発達障害・情緒障害
通級指導教室、通称「かがやき」
を担当してから七年目となりま
す。途中、悪性リンパ腫の再発
があり命を失いかけてましたが、
治療が功を奏し文字通り第二の
人生を送っています。

さいたま市で、小学校は「か
がやき」、中学校は「はばたき」
と呼ばれている通級指導教室は
平成二十九年度に数を三倍に増
やし、その後も毎年三校ずつ増
えて現在三十六校に設置されて
います。

ASD（自閉スペクトラム症）、
ADHD（注意欠如・多動症）、
選択性緘黙、DCD（発達性運

動機能症）、LD（読み書き障
害）、あるいはその疑いがあり
学習に支障のある児童・生徒を
対象として指導しています。発
達障害についての理解が広がる
とともに、対象と挙げられてく
る子どもも年々増加してきてい
ます。繰り返し学習ではうまく
身に付かない、心の理論から外
れていて一般的な学び方ではう
まくいかなことが多く子ども
たちです。「かがやき」での指
導はソーシャルスキルトレーニ
ングや読み書きの練習、感覚の
統合を図る運動をするなど子ど
もと担当者との一対一での学習
が中心ですが、担当者の役割と
して家庭環境と学校環境、子ど
も本人の特性の三つの歯車の調
整も大事な仕事です。ある意味
究極の「個別最適な学び」を目
指しているとも言えます。

この歳になってもまだまだ学
ぶことの多い仕事ですが、子ど
もたちの笑顔に支えられ、生き
ることの喜びを感じる日々を過
ごしています。



お江戸日本橋 七ツ立ち……

星野 好男

十年ほど前から、時々東京都
内を歩いている。高校、大学と
都内に通っていたので、知って
いる街は多いが、JRや東京メ
トロを使っていたので、道路は
詳しくない。さいたま市辺りに
住んでいると、東京は買物物
する場所程度にしか思わないが、
東京は魅力のある観光地だ。

歩いてみるといろいろと発見
がある。日本橋から神田にかけ
ては江戸の名残が多くある。日
本橋は商人の町、神田に入ると
職人の町へと一変する。永田町
辺りの官庁街から首相官邸にか
けては自販機がない。警備と関
係があるのだろうか。乃木坂に
ある乃木神社は乃木希典將軍を
祀った神社だ。吉田松陰は松陰
神社、東郷平八郎は東郷神社な
ど、日本では偉人がよくご祭神
になる。東京駅から新宿駅は七

kmと、意外と近く十分に歩ける。
「お江戸日本橋七ツ立ち初の
ぼり 行列そろえてあれわいさ
のさ コチャ高輪夜明けて提灯
消す コチャエーコチャエー」
ある時、聞いたことのある曲が
聞こえてきた。少し興味を持ち、
考えてみた。

「日本橋を出て、高輪辺りで
夜が明けて、提灯を消すのか。
日本橋から高輪まではおおよそ七
kmほどなので、二時間ほどで着
くだろう。そう考えると七ツは、
夜明けより二時間ほど前だと考
えられる。」

以下は、調べたものだ。
今の言葉にすると、
「お江戸日本橋を朝四時に出
発初めての京都旅行 行列を揃
えて、さあ！出かけましょう
そろそろ高輪、夜明けになった
から提灯を消そう こちらへ、
こちらへ」
歴史等を考えながら、東京を
歩いてみると楽しくなる。

「人生」雑感

脇田 茂雄

先日大学時代の同期会があった。数十年ぶりに会う友人も多く、老いを感じる時間でもあった。人生を楽しんでいる者、仕事をバリバリこなしている者等様々であったが、会って数分で昔に戻ることができた。

縦社会が強い体育会運動部、不合理な制度、不条理な正義、理不尽な行動、今となってはいい思い出だが、当時は日々戦っていた。挫折時は、同期の絆が救ってくれた。皆で「日本一」という夢を追ったが、在学中叶えることはできなかった。

卒業後も競技を続けた。仕事との両立で色々と学んだ。夢を語り、多くのことを実践したが、個人では限界があり、チームメイトの多くは去っていった。そんな時、著名人の講話に学んだ。「夢は逃げない、逃げるのは自分」、「努力は運も支配する」、

義父の言葉で決断した。「時期を待つ。簡単によい風は吹かない。でも、続けていけば、これだと思ふ風が吹く。その時こそ全力で臨め。」納得した。以後体力の衰えと戦いながら競技を続けた。

流れがきて夢が叶う。しかも二年連続で。応援してくれた人たちに全員に感謝した。特に一緒に夢を追ってくれた妻には頭が上がらない。

振り返ると、「実践」が自分の強さだとわかる。以後「どうせなるなら日本一、大きな夢をもとう」と旗を上げ、夢を語る人を育てようと頑張ってきた。現在、大宮区の小さな交差点

で、朝のあいさつ運動で気持ち良い時間を演出している。ほんの一瞬でも幸せを感じてくれる人が増えれば最高である。

これからの人生、どんなステージに立っても、夢を追い、楽しみながら、誰かの役に立っていければ最高である。

あけ初める春、
田島の野辺を・

佐藤 和男

今年度、再任用の学校地域連携コーディネーターとして三年目を迎えた。勤務校は、四十一年前に初任の教員として赴任した田島中学校。私にとって、特別な存在だ。

大学を卒業する前に一か月間だけ病休代員として勤務し、大学卒業後そのまま一年間の臨任教員。その年、採用試験に合格し、そのまま継続で本採用教員として十一年間。大学生の時から通算十二年一か月、お世話になったことになる。当時は学校の周りには何もなかったが、今では大きなマンションや企業の建物などで大きく変わった。しかし、百m廊下の校舎、体育館、グラウンド、そして柔道部を担当していた私にとって縁の深い武道場（翔友館）等、今も変わり

なく様々な想いが湧いてくる。十二年間で実に多くの生徒と関わる事が出来た。

そして、再登板した今、入学式、卒業式、体育祭等で保護者から、「和男先生、お久しぶりです。」と、声を掛けられることが少なくない。そんな時、私は決まって、「あなたは誰？」と、失礼な言葉を発してしまう。そんな挨拶から、大抵、懐かしい思い出話に発展する。楽しい思い出ばかりではないが、当時の思い出を出して、お互いに笑顔で話が進む。やんちゃな中学生がこんな立派な親になっているなんて、自分も年を取ったわけだと、つくづく実感する。

田島中学校では現在、朝や授業の始業チャイムの前に吹奏楽部が演奏した校歌が放送で流れる。その演奏を聞きながら「あけ初める春、田島の野辺を・・・」と、何気なく口ずさむ自分がいる。



「老年期を生きる」 ささやかな一事例

佐藤むつみ

私は、定年退職後、さいたま市教育委員会に主査として、お世話になりました。その際、学校心理士の資格を取得する案内を見、受験しました。その後、ガイドンスカウンセラー、更に特別支援教育士の資格に挑戦、土・日の研修会と二泊三日の合宿を含め、三年がかりでこの資格を取得しました。この研修では第一線で活躍の先生方の講義が大変興味深く、深い感銘を受け、また、たくさん学びを得ることができました。

主査としての仕事の年限が過ぎた後、これらの資格を基に教育相談員とスクールカウンセラーに就くことができました。

このことで、小学校一年生の児童と現場の先生や管理職の方々、保護者の皆様、また、子どもの成長を支える多くの専門分野の

皆様との出会いがあり、とても新鮮で刺激的で感謝の日々となりました。

また、丁度、この時期に、公認心理士制度が始まり、自分の実力も顧みず、試験を受けました。やはり、そんなに甘い世界ではなく、一年目はあっさり、不合格。二年目にやっと最低点で合格して、今でも二つの仕事を継続させて頂いています。

とはいえ確実に年は取り、体力・気力の低下を感じます。そこで、五年ほど前、「やりたい事をやる」「やりたくない事はやらない」と密かに決め、白髪は赤く染め、玉置浩二のファンクラブに入会、コンサートを追いかけています。逆に、地域の公園掃除は夫に頼み、夕飯は時にカップラーメン、年賀状はお知らせもせず勝手に辞めて多くの皆様に礼を欠いています。私の老年期、何とかこうしてバランスを保っての毎日です。

私の趣味

金子みゆき

私は趣味を三つ持っています。一つ目の趣味は二十年続く野菜作りの趣味です。初めた頃にはネギとホウレンソウの二種類でしたが、今では三十種余りになりました。最近地球温暖化の影響で春が少しずつ早くなっている感じです。

春の足音が聞こえてくると、庭の一角にふきのとうが顔を出し、いよいよ農作業の開始です。ジャガイモ植え、サトイモ植え、春キャベツの収穫、タマネギの収穫、そして、トマト、キュウリ、なす、ピーマン、スイカ等夏野菜の苗植えです。私は薬剤を使いません。安心安全の味です。キャベツ、ブロッコリ、大根の葉は虫食いだらけですが、寒さがやって来ると虫達も生きていくことができません。やっと安定して来ます。草の勢いは強く、夏の畑はあっとい間に

草に覆われ、草と悪戦苦闘しますが、きれいになると爽快感は格別です。夫が季節の変わり目に耕運機で畑を耕してくれます。

二つ目の趣味は、「初めての短歌作り」教室に八年前に参加しました。藤島秀憲先生を講師に、月一回歌会をやっています。仲間の人達との交流もでき、今では会えるのが楽しみです。

ゆったりと青鷺一羽飛翔して
寂しさ募る晩秋の空

筑波山岩場を越えて山頂へ
これが鳥瞰平野広がる

霜枯れの秋の馬鈴薯草陰に
土の中より白き顔出す

大寒に気合いを入れて初仕事
高齢者らと社会を繋ぐ

三つ目の趣味が運動です。私は運動が得意ではありませんが、芝浦工業大学の運動教室に参加して七年。今では仲間もでき、少しずつ体を動かしています。今自治会の百歳体操のリーダーをやっています。



心がわくわくする

日々

渡邊 正道

今春コロナウイルス感染症対策を講じながら外出し易くなりバラを見に行くことにした。先ずは五月十日、大輪のバラが咲き誇り美しく花数豊富なバラが圧巻で特につるバラも見事な入園無料の「与野公園」では、バラの素晴らしさに圧倒された。

次に五月十一日、毎年楽しみにしているバラが華麗に咲き誇る県内最大の「伊奈町バラ園」は、早咲きから遅咲きの小輪のバラまで大変美しく、三つのエリアにそれぞれ見所があり、長期間いつでも楽しませてくれる、何回も訪れたくなるバラ園で、今シーズンは計三回訪れた。

五月十七日、「あしかがフラワーパーク」は、華やかさと甘い香りに満たされたまさに「バラの夢の世界」で、どの時期よりも一番好きな光景である。

五月二十一日、「鴻巣花まつり」では、「赤い絨毯のポピー畑」や「色鮮やかな麦なでしこ畑」に魅了され、遠くの山並みで見渡せる清々しい風景を堪能した。その後、長屋門や江戸時代末期建築の旧母屋を移築再生した古民家と、まわりの庭園には季節の花々と共に美しく甘い香りに包まれたローズガーデンがあり優しく迎えてくれる「花久の里」でゆっくり過ごした。

その他県内には「川島平成の森公園の日本一長いバラの香りに包まれるトンネル」、県外には「京成バラ園」や「神代植物公園」なども圧巻で美しいバラと香りで心を癒やしてくれる。

昨年三月末完全退職し、ピートルズの歌詞を意識したいとの思いからEテレ「英会話定番レシピ」を始めた。また、コロナ禍で封印した美術館・博物館・寺社巡りも再開した。そして、久しぶりに中学生に数学を教えることを現在模索中である。

ジャコウアゲハと
出合っ

林 春枝

ジャコウアゲハは雄成虫から麝香のような匂いをさせることに由来する。雌はやや茶色がかっている。ジャコウアゲハはウマノスズクサのみを食草とし、ウマノスズクサに卵を産み付けて、幼虫はウマノスズクサを食べて成長し蛹になる。このジャコウアゲハとウマノスズクサの関係性は不思議である。蝶の幼虫は食欲旺盛で茎もかじってしまふため、草は枯れてしまふ。しかし、また根元から芽を出し、蝶のために自己犠牲か無償の愛を捧げているかのように感じてしまふ。

私は、教職生活最後の勤務校である東宮下小でジャコウアゲハと出合った。そして、魅了された。退職後の生活は、ジャコウアゲハと共にある。不要な植木を抜き、野菜作りとウマノス

ズクサを植えるための畑にした。四月末になり気温が温かくなると、ウマノスズクサが芽を出す。それに呼応するように、冬越しした蛹が羽化し、ひらひらと舞う。

見沼区でジャコウアゲハの保護活動をしている堀江誠之氏に、今でも教えを請いながら、自宅のジャコウアゲハを増やしている。幼虫は黒色で、一齢幼虫から四齢幼虫まで脱皮を繰り返して大きくなる。そして、少し離れた気に入った場所で糸掛けをして、体を大きくゆらしながら一気に脱皮をして蛹になる。生命の神秘といえる瞬間である。

ジャコウアゲハは、人間が好きなのか、庭の水やりをしていると、どこからか現れ、私の周りを飛び回る。蝶は一年に三、四回、卵↓幼虫↓蛹↓成虫を繰り返し、寒くなると最後の蛹はそのまま冬越しをし春を待つ。蝶の舞う姿は、正に幽玄、雅の世界で私の癒しとなっている。

心 覚 え

令和5年度さいたま市退職校長会 役員名簿

役 職	氏 名			
顧問	西村 皓 (浦和)	竹本 昭剛 (大宮)	関口 靖彦 (浦和)	加々美健一 (大宮)
会 長	桑原 裕通 (与野)			
副会長	金子 敏夫 (浦和)	新井 広 (与野)	佐藤 博志 (大宮)	佐藤 憲克 (岩槻)
監 事	橋 克彦 (浦和)	菊地 豊 (与野)	鶴沼 邦雄 (大宮)	新井このみ (岩槻)
理 事	高取 廣美 (浦和)	山崎 俊 (浦和)	木村 栄二 (浦和)	松下 道夫 (浦和)
理 事	高橋 正 (浦和)	星野 貞邦 (浦和)	脇田 茂雄 (浦和)	石川 信和 (浦和)
理 事	秋山 正光 (与野)	浅見 茂男 (与野)	藍川 達雄 (大宮)	金子 泰久 (大宮)
理 事	佐藤 薫 (大宮)	渡邊 正道 (大宮)	中村 秀男 (大宮)	渡邊 朋久 (大宮)
理 事	橋本 栄 (大宮)	田代 敏生 (大宮)	西川 和利 (大宮)	岡野 功 (岩槻)
理 事	秋元千代子 (岩槻)			
事務局長	野口 浩 (与野)			
幹 事	蓮見 哲 (浦和)	千葉 和博 (浦和)	並木 昌和 (浦和)	上原 善一 (浦和)
幹 事	大谷 慎也 (浦和)	金子 強 (与野)	山岡 康幸 (与野)	星 美千也 (大宮)
幹 事	豊島 登 (大宮)	大澤 敬 (大宮)	鯨井 幹夫 (大宮)	斎藤 栄一 (岩槻)
幹 事	萩原 昇 (岩槻)	井上 修一 (岩槻)		

令和5年度さいたま市退職校長会 会員数 [令和5年5月1日現在]

浦和班	167名	与野班	39名	大宮班	179名	岩槻班	49名	合計	434名
-----	------	-----	-----	-----	------	-----	-----	----	------

さいたま市立小学校校長会 役員等運営組織

会 長	三島 公夫 (常盤小学校)		
副会長	永山 誉 (高砂小学校)	石川 颯一 (木崎小学校)	永井 有司 (北浦和小学校)
副会長	河野 秀樹 (仲町小学校)		
監 事	高崎 芳和 (大谷小学校)	野津美智代 (大宮南小学校)	
幹事長	佐藤 利春 (美園北小学校)		
幹 事	小野 圭司 (南浦和小学校)		
幹 事	井上 雅史 (原山小学校)	三村 美延 (針ヶ谷小学校)	引間 陽子 (指扇小学校)
幹 事	千明 勉 (春岡小学校)	西谷 健児 (春野小学校)	
書 記	緒方 健二 (上木崎小学校)	宮本江津子 (河合小学校)	
会 計	米玉利優子 (神田小学校)	吉岡 貴和 (大戸小学校)	

さいたま市中学校長会 役員名簿

会 長	小熊 誠 (日進中学校)		
副会長	大河内範一 (南浦和中学校)	小林 正樹 (大谷口中学校)	小林 正美 (大宮北中学校)
副会長	堀口 成之 (宮原中学校)		
監 事	野平 尚彦 (尾間木中学校)	山口 聡 (植水中学校)	
顧問	加藤 明良 (片柳中学校)	幹事長	田村 浩司 (大宮南中学校)
幹 事	山浦 麻紀 (岸中学校)	玉崎 芳行 (常盤中学校)	渡邊 哲哉 (白幡中学校)
幹 事	太田 鋭一 (田島中学校)	浅見 正史 (大宮東中学校)	森角由希子 (大宮西中学校)
幹 事	鈴木 純 (泰平中学校)	渡部 智昭 (宮前中学校)	大原 照光 (土呂中学校)
幹 事	金子 宜史 (城南中学校)		

さいたま市立の学校 [令和5年5月1日現在] (小中児童生徒数・学級数は、特別支援学級含む)

学校種別	学校数	児童・生徒数	学級数	市費教職員数
小学校	104校	67,475名	2,158学級	3,217名
中学校	58校	31,691名	876学級	1,884名
中等教育学校	1校	778名	20学級	75名
高等学校	3校	2,877名	72学級	210名
特別支援学校	2校	61名	25学級	101名

編集後記

会報第38号をお届けいたします。新型コロナウイルス感染症の法上の分類が、季節性インフルエンザと同じ5類に移行し、3年にわたる新型コロナ対策は「平時」に近づきました。そうした中、万全な感染対策のもと、令和5年度さいたま市退職校長会総会を開催することができました。本号はその報告を含め、いただいた玉稿を中心に編集いたしました。この場をお借りし、ご協力いただきました皆様へ心より感謝申し上げます。(広報部担当幹事 千葉 和博)